

Ⅲ わが国に多い5大がん - その3 -

「胃がん」

男性に多く、50歳代後半～60歳代が最多

胃がんとは、胃の粘膜から発生した悪性腫瘍です。50歳代後半～60歳代が最多で、男性に多く、日本人に最も多いがんです。最近では死亡率は減少していますが、罹患率(がんになる率)は減っていません。早期胃がんは無症状のことが多いのですが、胃部不快感や胸やけ、食欲不振があることもあります。

発育とともに深さを増していく胃がん

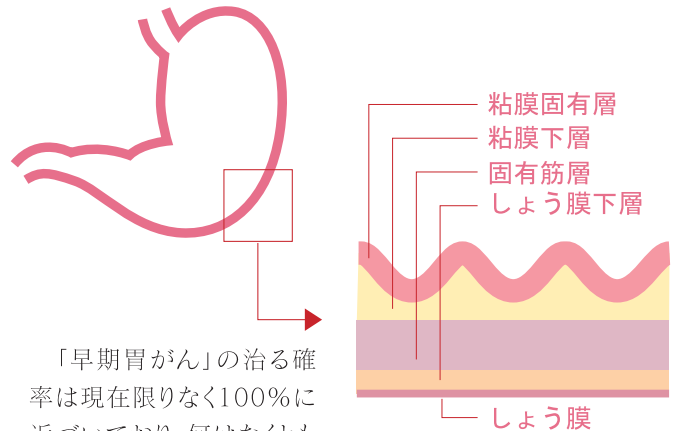
胃の壁は内側から外側にかけて粘膜固有層、粘膜下層、固有筋層、しょう膜下層、しょう膜と何層にもなっています。胃がんは、内側の粘膜固有層から発生し、発育とともに粘膜下層、固有筋層、しょう膜下層、しょう膜とその深さを増していきます。

転移の仕方は3種類

胃がんの転移の仕方には、播種性転移(胃の壁の外側にかんが露出し、腹膜にかん細胞がバラバラとこぼれて生着する)、血行性転移(血液の流れに乗ってがん細胞が胃と離れた臓器に運ばれ、そこで生着する)とリンパ行性転移(胃の近くのリンパ節から徐々に遠くのリンパ節にかんが入っていき生着する)の3通りがあります。

早期発見には内視鏡検査の健診がベスト

最初の2番目の深さの層までのがんであれば、転移を起こすことがほとんどないため、「早期がん」と呼ばれます。一方、3番目の深さの層以深のがんは、その深さに応じた転移の可能性が出てくるので「進行がん」と呼ばれます。



「早期胃がん」の治る確率は現在限りなく100%に近づいており、何はなくとも早期発見が大切です。特に無症状の時に健康診断で見られるがんは、治る可能性が高いので、1年毎の内視鏡検査による健診がベストと考えられています。

胃がんの原因は「ピロリ菌」の持続感染!?

胃がんの原因は、従来さまざまなことが言われていましたが、「ピロリ菌」の持続感染がその原因の多くを占めるのではないかと最近では言われています。残念ながら、日本ではまだ胃潰瘍や十二指腸潰瘍でない慢性胃炎の患者さんへの、胃がん発生予防のためのピロリ菌除菌治療は保険診療として認められていませんので、こうした場合は自費診療となります。

